

CASBEE\_Sapporo2014v1.0  
 紀文フレッシュシステム札幌新センター新築工事

■使用評価マニュアル: CASBEE\_Sapporo2014v1.0  
 ■評価ソフト: CASBEE札幌2014 (ver.1.1)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階			重点評価項目: W 省エネルギー・省資源、G 緑化、S 雪処理				
配慮項目	重点評価項目			環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
	W	G	S		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
<b>Q 建築物の環境品質</b>									<b>2.8</b>
<b>Q1 室内環境</b>						0.31			<b>2.8</b>
<b>1 音環境</b>					<b>2.5</b>	0.15			<b>2.5</b>
1.1 騒音					3.0	0.40			
1.2 遮音					<b>1.8</b>	0.40			
1 開口部遮音性能					1.0	0.60			
2 界壁遮音性能					3.0	0.40			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)									
4 界床遮音性能(重量衝撃源)									
1.3 吸音					<b>3.0</b>	0.20			
<b>2 温熱環境</b>					<b>2.2</b>	0.35			<b>2.2</b>
2.1 室温制御					<b>2.8</b>	0.50			
1 室温		W		ウレタンボードt50(屋根側)、GW24kt100(外壁面内壁)、複層ガラスの採用	3.0	0.38			
2 外皮性能					4.0	0.25			
3 ソーン別制御性					2.0	0.38			
2.2 湿度制御					<b>1.0</b>	0.20			
2.3 空調方式					<b>2.0</b>	0.30			
<b>3 光・視環境</b>					<b>2.9</b>	0.25			<b>2.9</b>
3.1 昼光利用					<b>2.4</b>	0.30			
1 昼光率					2.0	0.60			
2 方位別開口									
3 昼光利用設備		W			3.0	0.40			
3.2 グレア対策					<b>3.0</b>	0.30			
1 昼光制御		W			3.0	1.00			
3.3 照度				事務室で500lx	<b>4.0</b>	0.15			
3.4 照明制御					<b>3.0</b>	0.25			
<b>4 空気質環境</b>					<b>3.7</b>	0.25			<b>3.7</b>
4.1 発生源対策					<b>4.0</b>	0.50			
1 化学汚染物質				内装材は規制対象外・F☆☆☆☆を全面的に使用	4.0	1.00			
2 発熱体対策									
4.2 換気					<b>3.6</b>	0.30			
1 換気量					3.0	0.33			
2 自然換気性能				事務室で1/30以上	4.0	0.33			
3 取り入れ外気への配慮				事務室の給気位置は排気位置と距離をとっている	4.0	0.33			
4.3 運用管理					<b>3.0</b>	0.20			
1 CO <sub>2</sub> の監視									
2 喫煙の制御					3.0	1.00			
<b>Q2 サービス性能</b>						0.30			<b>2.9</b>
<b>1 機能性</b>					<b>2.6</b>	0.40			<b>2.6</b>
1.1 機能性・使いやすさ					<b>2.0</b>	0.40			
1 広さ・収納性					1.0	0.33			
2 高度情報通信設備対応					2.0	0.33			
3 バリアフリー計画					3.0	0.33			
1.2 心理性・快適性					<b>3.0</b>	0.30			
1 広さ感・景観					1.0	0.33			
2 リフレッシュスペース				更衣室内の畳スペース+喫煙室+食堂	4.0	0.33			
3 内装計画				建物全体のコンセプトや機能が明確であり、内装計画に反映している	4.0	0.33			
1.3 維持管理					<b>3.0</b>	0.30			
1 維持管理に配慮した設計					3.0	0.50			
2 維持管理用機能の確保					3.0	0.50			
3 維持管理業務									
<b>2 耐用性・信頼性</b>					<b>3.2</b>	0.30			<b>3.2</b>
2.1 耐震・免震					<b>3.0</b>	0.50			
1 耐震性					3.0	0.80			
2 免震・制振性能					3.0	0.20			
2.2 部品・部材の耐用年数					<b>3.9</b>	0.30			
1 躯体材料の耐用年数					3.0	0.20			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		W		ガルバリウム鋼板40年	5.0	0.20			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		W		床:タイルカーペット15年、壁:クロス15年、天井:クロス15年	4.0	0.10			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		W			3.0	0.10			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		W		給水汚水雑排水管の主要用途3種についてB以上で、Eは不使用	5.0	0.20			
6 主要設備機器の更新必要間隔		W			3.0	0.20			
2.4 信頼性					<b>2.8</b>	0.20			
1 空調・換気設備					3.0	0.20			
2 給排水・衛生設備					2.0	0.20			
3 電気設備					3.0	0.20			
4 機械・配管支持方法					3.0	0.20			
5 通信・情報設備					3.0	0.20			
<b>3 対応性・更新性</b>					<b>3.2</b>	0.30			<b>3.2</b>
3.1 空間のゆとり					<b>3.4</b>	0.30			
1 階高のゆとり					3.0	0.60			
2 空間の形状・自由さ				工(1階)壁長さ比0.109、事(1階)0.306	4.0	0.40			
3.2 荷重のゆとり					<b>3.0</b>	0.30			
3.3 設備の更新性					<b>3.4</b>	0.40			
1 空調配管の更新性					3.0	0.20			
2 給排水管の更新性					3.0	0.20			
3 電気配線の更新性				ケーブルラック・天井内隠蔽配線・電線管配線、天井点検口等	5.0	0.10			
4 通信配線の更新性				ケーブルラック・天井内隠蔽配線・電線管配線、天井点検口等	5.0	0.10			
5 設備機器の更新性					3.0	0.20			
6 バックアップスペースの確保					3.0	0.20			

CASBEE\_Sapporo2014v1.0  
紀文フレッシュシステム札幌新センター新築工事

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEE\_Sapporo2014v1.0  
■評価ソフト: CASBEE札幌2014 (ver.1.1)

スコアシート		実施設計段階		重点評価項目: W 省エネルギー・省資源、G 緑化、S 省処理		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点評価項目	W	G	S	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>						-	0.39	-	-	2.8
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			G			1.0	0.30	-	-	1.0
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>			G		外装はモダン基調、建物高さを低く抑えるなど周囲の圧迫感に配慮	4.0	0.40	-	-	4.0
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>						3.0	0.30	-	-	3.0
<b>3.1 地域性への配慮、快適性の向上</b>				S		3.0	0.50	-	-	
<b>3.2 敷地内温熱環境の向上</b>		W	G			3.0	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>						-	-	-	-	3.1
<b>LR1 エネルギー</b>						-	0.40	-	-	2.7
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>		W			建物の断熱を適切に配し、外壁や窓を通しての負荷に配慮	4.0	0.03	-	-	4.0
<b>2 自然エネルギー利用</b>		W				3.0	0.12	-	-	3.0
<b>3 設備システムの高効率化</b>					BEI 非住宅 0.92 住宅(専有部) -	3.0	0.61	-	-	3.0
集合住宅以外の評価(3a,3b)		W				3.0	1.00	-	-	
集合住宅の評価(3c)		W				-	-	-	-	
<b>4 効率的運用</b>						2.0	0.24	-	-	2.0
集合住宅以外の評価						2.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング		W				3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制		W				1.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価						-	-	-	-	
4.1 モニタリング		W				-	-	-	-	
4.2 運用管理体制		W				-	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>						-	0.30	-	-	3.4
<b>1 水資源保護</b>						3.4	0.20	-	-	3.4
<b>1.1 節水</b>					衛生器具は少ないが、節水型便器や水栓を積極的に採用	4.0	0.40	-	-	
<b>1.2 雨水利用・雑排水等の利用</b>						3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無						3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無						3.0	0.30	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>						3.3	0.60	-	-	3.3
2.1 材料使用量の削減		W				2.0	0.11	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用		W				3.0	0.22	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		W			-	3.0	0.22	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		W			フリーアクセスフロア	3.0	0.22	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		W				-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		W			内装が乾式工法で分別性・設備との錯綜に配慮、OA707採用	5.0	0.22	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>						3.7	0.20	-	-	3.7
<b>3.1 有害物質を含まない材料の使用</b>						3.0	0.30	-	-	
<b>3.2 フロン・ハロンの回避</b>						4.0	0.70	-	-	
1 消火剤		W				-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)		W			GW採用のほか、発泡系はノンフロン(現状ノンフロン製品のみ流通)を採用	5.0	0.50	-	-	
3 冷媒		W				3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>						-	0.30	-	-	3.3
<b>1 地球温暖化への配慮</b>					消費エネルギー削減により運用時のLCCO2排出量低減に配慮	3.1	0.33	-	-	3.1
<b>2 地域環境への配慮</b>						3.6	0.33	-	-	3.6
<b>2.1 大気汚染防止</b>		W			燃焼機器がない	5.0	0.25	-	-	
<b>2.2 温熱環境悪化の改善</b>		W	G	S		3.0	0.50	-	-	
<b>2.3 地域インフラへの負荷抑制</b>						3.7	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減		W			行政指導にのった排水対策を実施	4.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制						3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制					敷地内に駐輪場、駐車場を配置(必要台数分)、搬入用スペース考慮	5.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制		W		S		3.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>						3.2	0.33	-	-	3.2
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>						3.0	0.40	-	-	
1 騒音						3.0	1.00	-	-	
2 振動						-	-	-	-	
3 悪臭						-	-	-	-	
<b>3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制</b>						3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制						3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制						3.0	-	-	-	
3 日照障害の抑制						3.0	0.30	-	-	
<b>3.3 光害の抑制</b>						4.4	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策					光害チェックリストを過半満たす、広告物照明がない	5.0	0.70	-	-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策						3.0	0.30	-	-	